

11月



カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスがたたく希望の扉をひらいていこう 新たにつながるために 2030年に向けて一歩ずつ

故エリザベス女王に心を寄せて

―市場で出会った女王―

援助マリア修道会 Sr.杉原 法子



異質なものに出会い、人は初めて真の自己を発見すると言います。1972年から3年間、私はロンドン大学に通いながらリバプール、エディンバラ、そして緯度の最も高いハイランドにかけて旅をしました。

1975年の夏に、フェリーで海峡を渡りアイルランドのコークに入港。そこからバスで数時間のダブリンで休暇を過ごしました。ある日、近くの市場に買い物に出かけた時の事です。日本でい

えは築地のような市場でした。路地を入った薄暗い商店街で食材を求めていると、ざわざわと周りに人の群れが膨らんでいきました。なまりの強いアイルランドの英語に耳を澄ましていると、どうやら「クイーン」が来られたというのです。私もまだかりの中に混じりエリザベス女王をお迎えしました。数少ない従者を伴ったお忍びの女王は、満面の笑みを浮かべ人々と握手を交わしながら通り過ぎて行かれました。

その年に、女王は日本を訪問しておられます。都内2キロをオープンカーでパレード、沿道には11万人以上の人が女王を歓迎した模様を、テレビ中継で観ました。

あれから40年経った2022年の9月8日、聖母マリアの誕生の祝日に、女王は96歳の生涯を閉じられました。ウエストミンスター寺院での葬儀には、世界中からの国賓を迎え、荘厳な祈りのうちに執り行われました。日本からは、天皇皇后両陛下が参列され、両国の親しい関わりを垣間見せていただきました。そのミサで、ヨハネ福音書14章1-9節が朗読されました。「心を騒がせるな。神を信じなさい。わたしの父の家には住むところがたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであらうか。行ってあなたの方のために場所を用意したら、戻ってきて、あなたがたを私のものに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。」このイエスのことばは女王の凱旋を謳っているように思えます。そして、埋葬の地ウインザー城へと葬送の旅が続いたのです。

かつて訪れた地、美しい街ウインザーを思い出します。英国で在位70年という最長の君主として国民に寄り添って生きてこられた女王は、いつも「Smile（微笑み）」を忘れなかったそうです。あの市場で見せていただいた微笑みでしょう。

まじめで勤勉な女王は、「他者を助け、人々に誠実に尽くすこと」が君主の役割であると、常に言っておられました。「戦うための勇気ではなく、正しいと思うこと、真実や公正を貫くために立ち上がる勇気を持ちなさい」と、国民を励ましてこられました。女王は、まさに民のために全身全霊を捧げられた君主でした。「Meet Again（また会いましょう）」と、絆のスピーチを繰り返えされた女王エリザベス。バッキンガム宮殿のバルコニーから手を振る女王の姿を映像で観るたびに、ダブリンの市場で出会った、市井の人々と共に生きるエリザベス女王を思い出すのです。

教会報 MAGIS 11月号

- | | |
|--|------|
| † 2022年教会祭「つながるために」 | P2~4 |
| † 祝！池尻廣幸神父・ヘネロソ・フローレス神父 | P4 |
| † 司祭叙階おめでとうございます！
越智直樹神父、グエン・ミン・トアン神父 | P5 |
| † 新しい「ミサ式次第」などの実施に向けて | P6 |

【11月の共同祈願】

11月1日～

亡くなられた兄弟姉妹、
そしてすべての死者が、
私たちの捧げる祈りによって、
煉獄(れんごく)での清めの時を終え、
諸聖人の集いに迎え入れられますように。

担当：写真チーム

11月26日～12月18日(待降節)

待降節を迎えて祈ります。
神様の計画を受け入れた
マリア様とヨセフ様の態度を思い、
私たちに出来ることを
一日一日果たしていけますように。

担当：メリエンダ

2022年 教会祭

「つながるために」をテーマに
信仰によって一致し、祈り、歌う

2022年度の教会祭が、10月9日(日)主聖堂で対面(定員200名)とオンライン配信にて行われました。11時よりインターナショナルミサ、13時よりサトルニノ・オチョア主任司祭と首席オルガニストの浅井寛子さんがパイプオルガンへの思いやオーバーホールについてお話しをされました。パイプオルガンの美しい音色と各国の青年による聖歌の歌声が響き渡る中、参列者一同、「私たちの教会」への思いを新たにし、ヘネロソ・フロレス神父のイエズス会入会70周年などのお祝いできめくられました。

6つの言語が
ひとつになったミサ

主司式のオチョア神父とともに9人の司祭が入堂され、ミサは英語、日本語、タガログ語、スペイン語、ベトナム語、インドネシア語で執り行われました。参列者も各言語の共同体のメンバーが一同に集まり、教会祭にふさわしい国際色あふれるミサとなりました。

初めにオチョア神父は「一緒に祈り、歌い、生きる。イエス・キリストを信じる者として、今日みんなで集えることは幸いです。オンライン参加の顔の見えない方

とも一緒に、このミサを捧げたいと思います」と話されました。スペイン語の入祭歌から始まり、憐れみの賛歌はインドネシア語、栄光



の賛歌は英語、第一朗読は英語、答唱詩篇は日本語、第二朗読はインドネシア語、アレルヤ唱はベトナム語、奉納の歌「自分を捧げる祈り」は4ヶ国語で、感謝の賛歌はスペイン語、平和の賛歌はタガログ語で捧げられました。

オチョア神父は日本語で福音朗読されたあと、日本語、英語、スペイン語で説教され「私たちの教会は多様性に富んでいます、信仰によってひとつになっています」としめくられ、続いてグエン・タン・ニャー神父はベトナム語で、アントニウス・フィルマンシャー神父は

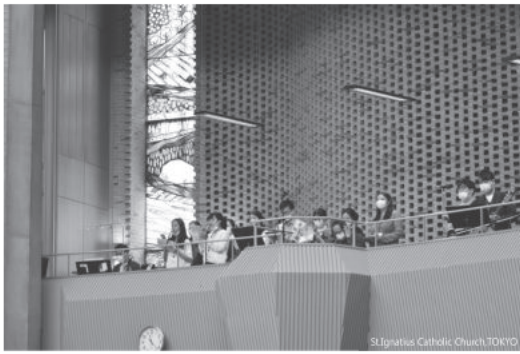


インドネシア語で説教をされました。

共同祈願は各言語の祈願者が祭壇前に立ち、互いにつながり、助け合えるよう祈りを捧げました。閉祭唱はインターナショナルミサを象徴する「アーメンハレルヤ」(手話付き)が歌われ、参列者全員の心がひとつになりました。

「主聖堂から未来へ パイプオルガンとともに」を テーマに語る

1999年の献堂時に設置されたパイプオルガンのオーバーホールが、2022年8月に実施されました。午後は浅井寛子さんの演奏と国際青年会のメンバーによる、行事などで歌われる浅井寛子さん作曲の「自分を捧げる祈り」から始まりました。続いて「こえをあわせ」「イエスよ、汝いまぞ天より降りたまひ」「J.S.バッハ」「ウェストミンスター（鐘（抜粋）」（L.ヴィエルヌ）も演奏され、新しく生まれ変わった力強い音色が聖堂いっぱいに響き渡りました。



信徒代表の〇〇さんは「設置から23年間、オルガンストたちは一日も欠かさず演奏し、パイプに風を送ってきました。そのおかげでコロナ禍の過酷な環境を耐え忍び、大きな故障もなく、現在に至っています。私たちのパイプオルガンはオルガンストが育ててきた音色、祈りを吸い込んだ聖堂が響かせる音色を奏でていきます」と挨拶されました。

オーバーホールの報告

浅井寛子さんのお話とともに、作業中の映像が流されました。「8月8日から1ヶ月間、約700万円をかけてオーバーホール（内部清掃、消耗部品の交換、不



具合の修理）を実施しました。通常は20年に一度オーバーホールを行うのが一般的です。コロナ禍により工期を決めかねていましたが、設置時からお世話になっていた松尾楽器商会からの提案で、製作したドイツのイエー・ムリツヒ社に依頼せず、全国から集まった4人の技術者でチームを組み行うことになりました。1ヶ月の間、協働する姿を間近で見せていただき、非常に感動しました。東日本大震災後に行った補強をさらに強め、20年後を見据えた作業もしていたいただきました」

技術者の皆さんへのインタビューのプリントも配布され、普段は見ることのできない裏方の仕事を知ること、パイプオルガンへの愛情を深める貴重な機会となりました。そして、パイプオルガンはこの教会の宝物であることを皆で共有しました。

オチョア神父のお話

献堂時を振り返りながらオチョア神父が話されました。「オルガンはピアノやバイオリンなどの楽器とは違

い、教会建築の一部で動かすことができません。当初は新宿通り側に設置する予定でしたが、ドイツの技術者が音響を確認して現在の位置に決まりました。この聖堂は人の声にはあまり適していませんが、オルガンがよく響く形状です。音の中に私たちが飛び込んでいる感じです」

オルガンの設置後、一年経ってから安置されたマリ・ア像の人氣についても触れ、私たちが一つにしているのは祭壇、パイプオルガンとマリ・ア像と話されました。また、ご自身が通われていたイエズス会の学校のパイプオルガンについて「10歳の時にオルガンが設置されました。初めて音楽の先生が演奏した日のことを今でもよく覚えています。それから23年後叙階して、同じ聖堂で初ミサをしました。つながりはオルガンです。言葉や民族などが違ってても、この聖堂には祭壇、オルガン、マリ・ア像があるので、私たちはつながることが出来ます。もちろん、難しさも伴いますが、それは恵みであり、チャレンジです」と話されました。

主聖堂のパイプオルガン

1999年の献堂時に設置。18世紀のドイツバロック時代のオルガンの特徴を受け継ぎ、製作はドイツの古都ドレスデンに工房を構えるイエームリツヒ社。作品番号1130号、日本では3台目の同社のオルガン。3つの手鍵盤と1つの足鍵盤、総計3146本のパイプを持つ。



オチヨア神父と
浅井寛子さんの対談

献堂時に教会委員長だった
■さんの司会で、
製作にまつるエピソードから
対談が始まりました。

■（以下、敬称略） 製作会社はドイツの2社、フランスの2社、アメリカの1社が検討され、1994年にドイツ・イームリッヒ社に決まりました。ドイツで製作され、1998年に日本に届き、組立工事が終わったのが1999年3月でした。価格は当時のレートで約8500万円。マルク払いでしたが、現在のユーロだったら倍の値段になります。教会全体の建設費は約50億円、その約2パーセントがオルガンの代金です。

神父 オルガンは「生き物」です。私たちの使い方によって成長します。以前、演奏された東京芸術大学の先生が「すばらしい。でも、まだ未熟」と言いました。1年後には「うん、成長している」と。3年目はオルガンに向かって拍手しました。オルガンは子どものように

育てていくのは大変ですが、100年経っても200年経ってもそのよさは変わりません。オルガンの音は私たちの祈りの響き、呼吸。音楽のおかげでつながることができるのです。

■置かれている場所、目的、オルガニストによって、奏でる音色が違います。このオルガンの音はここでしか聴くことができません。

浅井 このオルガンは聖堂の楕円形、波打っている壁に合うように製作され、パイプの配置、種類も聖堂に合わせて作られています。まさに教会と一体なのです。そして、このオルガンは手鍵盤3段、足鍵盤1段があり、ミサで演奏する機会は少ないのですが、バロック時代の豪華絢爛な音に加え、オーケストラのような大きな響きを持つ音を出すこともできます。

■1949年に旧聖堂ができた当初はパイプオルガンはありませんでしたが、1960年にオランダ・フェアシュレン社のオルガンが設置されました。指揮者の

小澤征爾さんはこの音色を聴いたことが、西洋音楽を志すきっかけの一つになったそうです。

神父 現在はコロナ禍のためミサに制限を設けていますが、もう一度肩を並べてミサに参加し、歌うことができたらうれしいです。

■どのようにして次世代に引き継いでいこうと考えていますか。

浅井 早急に若いオルガニストを育てていく必要があります。12名のオルガニストは順に引退の時期を迎えます。夏休みに行っていたジュニア・パイプオルガンデーの再開、希望者には個人レッス

スンなどを考えています。これから誕生した未来のオルガニストに、聖イグナチオ教会のオルガンを託したいと思っています。

■最後に教会音楽への思いをお聞かせください。

神父 以前、有名なオルガニストたちが演奏をした「オルガンの夕べ」というプログラムがありました。このオルガンは東京だけでなく外国にも知られています。音楽によって改めて一致し、教会に皆さんが帰ってきてくれることを願っています。

浅井 最初は硬かった音がやわらかになり、オルガンの成長を日々感じています。ご機嫌のいい時もあれば、悪い時もある。温度や湿度、集まっている人数によっても響きが変わります。刻一刻と変化していく様子を感じながら、最善を尽くし、新たな気持ちで見守っていきたいと思います。

最後は浅井寛子さんの伴奏で、教会内で活動する約10グループの聖歌隊の有志による「アヴェ・マリア」でしめくくられました。

祝！池尻廣幸神父・
ヘネロソ・フロレス神父

最後に2つのサプライズがありました。一つ目は献堂時の主任司祭だった池尻廣幸神父の司祭叙階50周年、金祝のお祝いで、現在、広島にいらつしやる神父様から「土・日曜学校からオルガニストが出てくれたらうれしい」というメッセージが読まれました。

二つ目はフロレス神父のイエズス会入会70周年のお祝いで、記念品と花束が贈呈され、オチヨア神父からお祝いの言葉が贈られました。

フロレス神父は「来日62年、この教会で司祭叙階されて56年、11月は米寿。神さまの慈しみ深い忍耐に感謝、感謝、感謝。イエスをより深く知り、より熱く愛し、より近くで従って、人々のために死ぬ。私のためにこの勇氣と恵みを祈ってください」と挨拶され、スペイン語グループ



から歌と演奏がプレゼントされました。



「11月のお知らせ(2022年10月22日)」から

+主の平安

新型コロナウイルス感染者数がある程度落ち着いてきました。2020年1月以来、なかなかミサに与れなかった期間が長く続いてきましたが、信徒の皆様にもミサに戻っていただくために11月5日(土)から次のように新型コロナウイルス感染症対策を変更します。

1. 主聖堂への入堂制限の緩和

主聖堂の入堂者制限を250人に増やします。

2. 高齢者・基礎疾患のある方のためのミサ

- ・「高齢者・基礎疾患のある方のためのミサ」を毎週土曜日12時に行います。
- ・主日の典礼として行われます。予約なし、無記名ですが、入堂制限をする場合もあります。
- ・このミサは新型コロナウイルス感染症対策として、なかなかミサに来られない方への配慮と主日ミサ参加希望者の人数分散を考えたものです。従って、今後の状況を見ながら継続の有無を判断します。

3. 主日ミサ

- ・【予約不要】下記ミサは予約なし、無記名としますが、入堂制限をする場合もあります。
土曜日18:00、日曜日7:00、12:00(英語)、13:30(スペイン語)、16:30(英語)、18:00
- ・【予約必要】予約制を継続するミサは以下の通りです。予約方法は従来通りです。
日曜日8:30、10:00、15:00(ベトナム語)

4. 平日ミサ

- ・【予約不要】11/7(月)から12時ミサを再開します(予約なし、無記名)。
- ・【中止の継続】7時、18時の聖体賛美式、グループ申込ミサは中止を継続します。

5. ミサ中の応唱

ミサ中の会衆は応唱ができるようになっていきます。聖歌は引き続き聖歌隊のみが歌います。

6. 新しいミサ式文

- ・11/26(土)待降節第1主日の12時ミサ(高齢者・基礎疾患のある方のためのミサ)からミサ式文が新しくなります。
 - ・聖イグナチオ教会では新しいミサ式次第を『ともにうたおう』(通称みどりの本)に挟み込みますので、こちらをご覧ください。
 - ・主日ミサでは主聖堂のモニターに新しいミサの受け応えを表示するので、参考にしてください。
- 【参考】新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」等の実施に向けて(東京大司教区)

<https://tokyo.catholic.jp/info/diocese/44553/>

(裏面に続く)



7. クリスマスイヴのミサ時間

12月24日(土)のミサ時間は次の通りです。参加方法などの詳細は12月上旬にお知らせします。

12:00(高齢者・基礎疾患のある方のためのミサ)、15:00、17:00、19:00
19:30 ベトナム語/Vietnamese(上智大学10号館) 21:00 英語/English

新型コロナウイルス感染症の感染状況、またミサ参列者が定員を超えるような状況が続く場合、このお知らせ内容も変更される場合があります。

菊地大司教様は「感染症対策では基本を守ることが大切です。『マスクをする、うがいをする、手洗いをする、換気をする』ように心掛けましょう」と言われています。

「油断しないこと、神経質にならないこと」、この両方のバランスを取りながら生活しましょう。

主任司祭 サトルニノ・オチョア

聖フランシスコ・ザビエルの取り次ぎを願う 9 日間の祈り

= 11月24日~12月2日 =

いとも愛すべき聖フランシスコ・ザビエルよ、あなたとともにつつしんで神の威光をあがめます。

あなたがこの世で受けられた恵みと永遠の栄光を思い、心から主に感謝いたします。

私たちもまた、清い生涯を送り、聖なる死をとげるお恵みを得るために、
あなたの力あるお取り次ぎを切に願います。

また、次のことについても取り次ぎください。

(お恵みを祈る)

主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、栄唱

聖フランシスコ・ザビエル、私たちのために祈ってください。

▲私たちがキリストの約束にかなうものとなりますように。

祈りましょう。

いつくしみ深い神である父よ、

▲あなたは、聖フランシスコ・ザビエルの心に、愛の炎と、
人々の救いへの熱意を燃え上がらせてくださいました。

聖フランシスコ・ザビエルは、いかなる危険や試練にもくじけず、
多くの苦労や旅を通して諸民族に福音を宣べ伝えられました。

彼の心を燃え上がらせた情熱を私たちの心にも沸き立たせ、
日本の教会が彼の宣教精神の遺産を受け継ぐことができますように。

私たちの主イエス・キリストのみ名によって。アーメン。

叙階式・初ミサ

9月17日(土)14時から主聖堂で菊地功大司教の主司式のもと、ヨアキム・グエン・ミン・トアン助祭、ペトロ・カニジオ 越智直樹助祭の司祭叙階式が行われました。

そして翌18日(日)の10時のミサでは、両新司祭の共同司式で初ミサも行われました。

聖イグナチオ教会で叙階されたミン神父、越智神父に、今のお気持ちを寄稿していただきました。信徒の皆様も、どうぞ新司祭のために祈りください。



▶「諸聖人の連願」で祭壇前に伏したミン神父(右)、越智神父(左)

St. Ignatius Catholic Church, TOKYO

初めて聖イグナチオ教会に足を踏み入れた日

越智直樹神父

初めて聖イグナチオ教会に足を踏み入れたのは1998年のちょうど今頃のある日の夕暮れでした。どこからか響き渡る鐘の音、工事用の囲いにかげられた赤いホースのような形をした電飾の光の中を足早に抜けていく人々の中に身を隠しながら、私はそつと聖堂の中に入り込んだのです。何かを一緒に暗唱している人々。急に振り返ってお辞儀をしてくる前席のご婦人。これは場違いな所に来ってしまった、早く退散しよう、そう思っていた矢先、周囲の方々に促されて否応なしに祭壇へと続く列に入られ、長い服を着た聖職者の前に立たされました。その時ふと頭に置かれた手の温かさに、私はここに居て良いのかもしれないと感じました。



St. Ignatius Catholic Church, TOKYO

●越智直樹神父 プロフィール●

1979年 4月27日生まれ
2011年 3月 イエズス会入会、修練、哲学を学ぶ
2016年 中間期生としてミクロネシア・チューク州のザビエル高校と神戸の六甲学院中学校・高等学校で教える
2019年 神学課程に入る
2022年 3月 助祭叙階
2022年 9月17日 司祭叙階

新司祭としての按手を求められる度にあの瞬間がよみがえります。あの時は、まさか将来そこで自分が司祭に叙階されることになるとは想像だにしていまませんでした。神様のなさることは本当に不思議です。皆様、沢山のお祈りと祝福がありとうございます。そしてこれからも、どうぞよろしくお願いいたします。

司祭の役割を

果たすために

グエン・ミン・トアン神父



St. Ignatius Catholic Church, TOKYO

イエズス会新司祭のベトナム出身グエン・ミン・トアンです。2022年9月17日に聖イグナチオ教会で叙階されました。私は幼児洗礼です。カトリック教会の環境の中で育てられました。毎日与っていた教会のミサの中で、司祭たちが祭壇で手を広げてミサを捧げている姿をずっと見ていたので、いつの間にか私の心の中にその姿が入り込んでいました。今でも振り返ると、その姿は美しいと感じます。そしてその姿を通して、少しずつ

●グエン・ミン・トアン神父 プロフィール●

1985年 9月27日生まれ
2010年 5月 イエズス会入会、修練、哲学を学ぶ
2015年 来日
2年間日本語を学び、その後中間期生として長崎の26聖人修道院に住みながら、日本26聖人記念館の仕事を手伝う
2019年 神学課程に入る
2022年 3月 助祭叙階
2022年 9月17日 司祭叙階

つ神父になりたいという望みが強くなりました。私が司祭になることができたのは、家族皆と故郷の教会の信徒たち、そしてイエズス会の先輩たちのおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私は叙階されてから、まだ一ヶ月ですが、どうか司祭の役割を果たすことができるように皆さんの祈りと支えをお願いいたします。(叙階式・初ミサともにYouTubeにて配信中)

「ミサの式次第と 第一〜第四奉献文」などが 変更されます！

2022年11月27日（待降節第1主日）から、ミサの式次第と第一〜第四奉献文などが変更されます。当教会で典礼を担当されている柴田潔神父に、なぜ今、変更されるのか、また変更されるのはどのようなところなのか、詳しくご解説いただきました。

改訂作業の経緯

第二バチカン公会議後の典礼刷新を受けて改訂された『ローマ・ミサ典礼書』ラテン語規範版の初版（1970年）は、すでに2回改訂されています。そのラテン語規範版第2版（1975年）に基づく日本語版『ミサ典礼書』（1978年）の翻訳・改訂作業が続けられてきました。

2015年11月29日から、現行の日本語版『ミサ典礼書』の式文を用いながら「ローマ・ミサ典礼書の総則」改訂訳に合わせてミサを実施



「ローマ・ミサ典礼書の総則」改訂訳に合わせてミサを実施

施する措置を取ることになりました。これは、規範版第3版に基づくミサの移行への第1段階といえます。

そして、2022年11月27日（日）から新しい式文を用いてミサを実施することになりました。これは、規範版第3版に基づくミサへの移行の第2段階です。なお、現行の『ミサ典礼書』の全体的な改訂作業は規範版第3版に基づいて今後も続けられていきます。すべての式文や祈願文の新しい翻訳が完成し、一巻にまとめて出版されるまでには、今しばらくの時間が必要です。

大きな変更は…

大きな変更点は以下の2つです。

司祭…主は皆さんとともに
会衆…またあなたとともに。

ラテン語の規範版の直訳では「またあなたの霊とともに」となりますが、身体を離れた霊魂を想像するのが難しいために「あなた」の訳が採用されました。

もう一つは、拝領前の信仰告白です（選択ですが百人隊長の言葉を唱えます）。

一同…主よ、わたしはあなたをお迎えするにふさわしい者ではありません。おことばをいただくだけで救われます。

これまでの信仰告白「主よ、あなたは神の子キリスト、永遠の…」も使用できますが、司祭団から「この文言を使っているのは日本だけで世界に合わせた方がよい」との意見でこちらを選択します。



YouTube・横浜教区「新しい『ミサ式次第』研修用動画」で模擬ミサを配信中！



柴田神父に聞く 心配なこと あれこれ…

Q1. 新しい式文に対して教会はどのような準備をしていますか？

『ともにうたおう』（通称みどり本）に、光明社が発行している新しいミサ式次第を「マルタとマリアの会」がはさみ込んでくれます。また、主聖堂での主日のミサでは、受け答えをモニターに映し出す準備をしています。ミサに与る時にはどちらも助けになります。

Q2. 会衆はどのような態度で臨めばいいでしょう。

段々と慣れていけばいいので、身構えて準備する必要はないでしょう。司祭もそうですが「もう覚えた」と思っても見ないで唱えるといった以前の式文が出てしまいます。当面は「ともにうたおう」、もしくはモニターを見て、丁寧に正確に唱えるように心掛けましょう。

Q3. ミサ曲はどのようになりますか？

当面は、これまでのミサ

曲でミサができます。新しいミサ曲が揃い、聖歌隊の練習が進むと徐々に切り替えることとなります。また、会衆の歌唱が許されるのが前提になります。

Q4. 会衆が練習する場合
はあるのでしょうか？

コロナ禍で予約なしに大勢の人が集まるのは難しいので、研修会は典礼奉仕者のみで実施します。なお事前に準備されたい方には左記の参考図書がオススメです。

参考図書

●『ミサ式次第』（会衆用簡易版）光明社、1100円

●『キリストとわたしたちのミサ』（新式次第版）サンパウロ、495円

●『ともにささげるミサ』（新訂版）ミサの式次第 会衆用 オリエンズ宗教研究所 770円

（価格はすべて税込）

※入荷時期未定



Family of St. Ignatius

～英語圏から～

ご存知でしたか？ 英語圏の結婚式事情

ベトナム語圏の結婚式はほぼ毎週、日本人は月5回位。では英語圏ではどうでしょう？

ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンターにも結婚準備の「プレ・カナコース」があり、多くの国際カップルに寄り添って来ましたが、彼らは一生に一度のイベントを祖国の愛する人たちと祝うため、イグナチオ教会で結

婚式を挙げていないのです。

コースはカップルに合わせたオーダーメイドで、パートナーがカトリック教徒ではない場合などには追加のセッションを行います。内容は分かち合いと対話で、司牧的な問題にも重点を置きます。

多くのカップルは、最初は「しょうがない！ 受講しなければならぬから」と受講し始めますが、最終的には結婚に対する見方が深まりとても感謝しています。秘跡の尊厳に高められ、彼らは結婚が真に神からの美しい贈り物であることを理解するようになるのです！

●10月の宣教司牧評議会からのお知らせ●

(10月6日開催)

1. 2022年度の教勢調査を10月1日(土)、2日(日)の主日のミサで各聖堂係のご協力を得て行いました。日本語のミサ出席者は785人(昨年は509人)、外国語ミサは913人(昨年は544人)。ミサ出席者合計は1,698人(昨年は1,053人)でした。2022年は昨年に引き続き、土曜日12:00に高齢者・基礎疾患のある方専用ミサが行われました。

インドネシア語のミサは第2・第4日曜日に行われているため、調査の対象となりませんでした。

2. 11月より高齢者・基礎疾患のある方専用(予約不要)の主日ミサが毎週土曜12時に行われるようになります。
3. 教会黙想会が11月23日(水)に行われることの報告がありました。
4. 長寿のお祝いカードに、信徒評議員より高齢者の方へお手紙を添えることになりました。

●教会黙想会●

日 時：11月23日(水)10:00～講話と黙想 12:00～ミサ
場 所：主聖堂

テーマ：「教皇フランシスコの訪日を思い起こして
～教皇来日3周年を記念して～」

指 導：レンゾ・デ・ルカ神父(イエズス会日本管区長)
※詳細は教会ホームページをご覧ください。

●新協力司祭●

10月より関根悦雄神父が聖イグナチオ教会協力司祭として着任されました。よろしくお願いいたします。

●財務報告●

9月25日(日)「世界難民移住移動者の日の献金」605,230円は、日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられます。

●ハビエル・ガラルダ神父の新著●

『愛を見つめて－高め合い、乗り越える－』

(集英社インターナショナル、本体820円＋税)

コロナ禍、災害、戦争—こんな時代だから愛について考えてみませんか？ 男女の愛、家族愛、友愛など様々な愛の形についてお話しています。

●2022年クリスマスミニバザーのお知らせ●

開催日：11月27日(日)、12月4日(日)

時 間：9時～13時

- ・今年も感染予防対策を徹底し、小規模ミニバザーとして屋外にて実施します。
- ・6～7グループの出店。

※バザー頒布用の献品と手作り食品は受付ません。

献金はイグナチオ教会を通じ、イエズス会難民サービス(JRS)経由でウクライナ支援にあてられます。ご協力をよろしくお願いします。

クリスマスバザー実行委員会

●クリスマスイヴのミサ時間●

12月24日(土)クリスマスイヴのミサ時間です。
参加方法などの詳細は12月上旬にお知らせします。

12:00(高齢者と基礎疾患のある方)、15:00、17:00、
19:00、19:30(ベトナム語)、21:00(英語)

●心の相談室●

現代社会の中では思いがけない出来事や悲しみに出会うことがあります。そんな時、一人で抱えていないで、ちょっと話をしてみませんか。

- ・秘密は守られます
- ・信仰の有無を問いません
- ・予約制
- ・自由献金

相談時間：月～金曜日 11:00～15:00

土曜日(第1、第3) 13:00～15:00

日曜・祭日・年末年始・8月は休み

TEL：03-3263-4584(聖イグナチオ教会代表)

●聖イグナチオ教会あしたのいえプロジェクト●

「あしたのいえ」は2020年に活動を開始したプロジェクトで、生活困窮者の方に一時的な住まい(シェルター)を提供しています。現在グエン・タン・ニャー神父とスタッフ、ボランティア8名で工夫や改善をしながら運営しています。

また、関係諸団体と連携、協働し「大人食堂」を開催しています。一人ひとりにある賜物がないがしろにされることなく、一人ひとりが生かされる社会を願って活動しています。

ホームページ

インスタグラム



11月の典礼と行事

1 (火) 諸聖人の祭日	ミサ 12:00 18:00 主聖堂 (予約なし)
2 (水) 死者の日	死者の日ミサ 12:00 18:00
4 (金) 初金曜日	
5 (土)	2021年度合同追悼ミサ(第2回 非公開ミサ) 10:00 主聖堂 七五三祝福式 15:30 主聖堂
6 (日) 年間第32主日	日曜サロン、ミニオリエンテーション 11:00～12:30 ヨセフホール
9 (水)	傾聴ルーム 13:00～15:00 ヨセフホール
13 (日) 年間第33主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 貧しい人のための世界祈願日
19 (土)	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:30 主聖堂
20 (日) 王であるキリストの祭日	日曜サロン 11:00～12:30 ヨセフホール ミャンマーデー 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール 聖書週間(20日～27日)
23 (水)	教会黙想会 10:00 主聖堂
24 (木)	聖フランシスコ・ザビエルの取り次ぎを願う9日間の祈り(～12月2日まで)
27 (日) 待降節第1主日	クリスマスミニバザー

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。

主任司祭：サトルニノ・オチョア
 助任司祭：ポニー・ジェームス
 グエン・タン・ニャー
 柴田 潔
 協力司祭：ヘネロソ・フローレス
 ハビエル・ガラルダ
 関根 悦雄
 マヌエル・シルゴ
 シスター：イベッテ・サンチェス
 (セントロ・ロヨラ)
 フロール・フロレーセ
 (ジョン・デ・プリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間 Mass

【平日 Weekday】

7:00 (聖体顕示) 主聖堂 Main Chapel

12:00/18:00 (ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認)

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (English) / 13:30 (Español) /

15:00 (Việt Nam) / 16:30 (English)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Our Lady's Chapel

12:30 (Português) / 16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】

Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083

千代田区麹町 6-5-1

TEL 03-3263-4584

FAX 03-3263-4585

<http://www.ignatius.gr.jp>

ホームページ



フェイスブック